



エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

環境大臣

伊藤 信太郎 殿

2024年4月10日

岩谷産業株式会社
代表取締役 社長執行役員

間島 寛

創業100周年を迎える2030年の姿を『「住みよい地球」の実現に貢献し続ける企業グループ』とし、CO₂フリー水素サプライチェーンの構築や循環型社会の推進に取り組むとともに、当社を取り巻くすべてのステークホルダーとの関係構築・深化を図り、社会的責任を果たしてまいります。

1 自社の排出するCO₂削減を進めるとともに 水素事業などの拡大を通して脱炭素社会を目指します。

- 当社グループは、日本政府が掲げる2050年カーボンニュートラルに賛同し、そのマイルストーンとして、国内で当社グループが排出するCO₂について2030年度に、『太陽光パネルの設置』、『産業ガスプラントにおける冷熱利用の促進』、『再生電力（コーポレートPPA含む）への切り替え』、『J-クレジットの活用（燃料転換等で削減できたCO₂排出量を当社で環境価値化）』、『非化石証書の活用』により、2019年度比で50%削減（2030年度 CO₂排出量109.5千t）することを目指します。
- 2030年水素社会の実現に向け、脱炭素関連の需要拡大を捉えた、液化水素ビジネスの拡大、並びにCO₂フリー水素サプライチェーンの構築を進めます。2030年度の水素関連売上高2,000億円 水素販売量30万t/年を見据え、中期経営計画「PLAN27」において、水素関連投資として5カ年累計で1,780億円と計画するとともに、水素関連売上高920億円 水素販売量3万t/年の達成を目指しています。
- 脱炭素社会の実現に向け、低・脱炭素ソリューション事業の推進と供給体制構築・商品開発などへの投資を進めます。中期経営計画「PLAN27」において、5カ年累計投資額150億円を計画するとともに、脱炭素関連売上高1,700億円の達成を目指しています。
- 当社は、TCFD提言に賛同し、TCFDのフレームワークを活用して、気候変動に係るリスクと機会を評価・特定した上で、その対応を検証するとともに、情報を適切に開示していきます。

2 子どもたちの地球環境への関心と 社員の環境意識の向上に取り組んでいます。

- 「住みよい地球がイワタニの願いです」という企業スローガンのもと、2010年から全国の小学生を対象に「住みよい地球」をテーマとした全国小学生作文コンクールを実施しています。今後も、本コンクールを通じて、地球環境やエネルギーに対する子どもたちの関心を高めていきます。
- 社員の環境意識向上のため、新入社員・管理職向けの環境教育ならびにeラーニングを使用した全社員向けの環境教育を実施しています。

3 環境金融を活用し、CO₂フリー社会への移行を進めます。

- 当社は、2021年12月、国内で初めて水素ステーション建設資金を資金使途としたグリーンボンドを発行しました。グリーンボンドの発行による資金を水素ステーション建設に活用し、水素エネルギー需要を創出することで、CO₂フリー社会への移行を進めてまいります。

4 地球環境の保全を目指した取り組みを積極的に進めます。

- 「イワタニグループ環境憲章」および「岩谷産業 環境方針」を制定し、ISO14001規格に沿った環境マネジメントシステムを運用することで、地球環境の保全を目指した取り組みを積極的に進めています。

岩谷産業株式会社は、上記の取り組みの進捗状況を確認し、その結果をホームページなどで定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。

Iwatani